

障害者ボランティア

平成24年3月

身体に限らず障害を持った方は地域の支援がないと生活が成り立ちません。地域の支援とは制度や公共サービス、そして支援ボランティアやご近所のお付き合いなどがあります。

その中でも、支援ボランティアの役割は大きく、制度や公共サービスではできない支援を担うものです。

ボランティアとは自らの気持ちで社会貢献をしたいという気持ちが大事で、人に言われたからやらされるものではありません。そして、障害者の支援をしてやっているという気持ちがあると相手の要望やニーズがわがままに感じて「こんなにしてやっているのに・・・」という気持ちになってしまいます。障害者ボランティアは障害者が地域で生きる権利を地域で支え、豊かな人生を送るお手伝いをしているという気持ちが大事で、支援対象者が少しでもそれに近ずけたら自己満足で喜びを感じるものです。支援される方は当然の権利ではあるが感謝の気持ちはあるものです。しかし、依存度が強い人は過度の要求が多くなりますが、それを受け入れたり生活に深入りすると、障害者にとって一番大切な自立への弊害になりかねません。ニーズとわがままや過度の要求の判断は難しいので、困ったときは一人で悩まずに先輩ボランティアやボランティアコーディネーターに相談するのが大切です。長くボランティアを続けるのも大切なことなので自分に大きな負担を課さないことも重要なことです。

まずは相手の立場になって考える努力をして、その中で対象者が自立するために自分にできることを判断して、やれることを責任を持って活動してほしいと思います。

NPO法人活きる 宮脇貞夫